令和６年度 全国学力・学習状況調査

学力調査の概要及び結果

高槻市教育委員会　令和６年９月

【調査の概要】

＊「全国」は「全国・公立学校」の結果を、「大阪府」は「大阪・公立学校」の結果を表しています。

〇実施日：令和6年4月18日（木）
〇実施校数・実施児童生徒数　小学校：41校(6年生)・2,555人　中学校：18校(3年生)・2,548人
〇学力に関する調査
小学校：国語・算数
中学校：国語・数学
〇学習や生活の状況・学校の取組に関する調査
児童生徒質問紙調査
学校質問紙調査

【調査結果の取扱い】

本調査により測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのため、序列化や過度な競争を目的とした取扱いにつながらないよう十分配慮をお願いいたします。

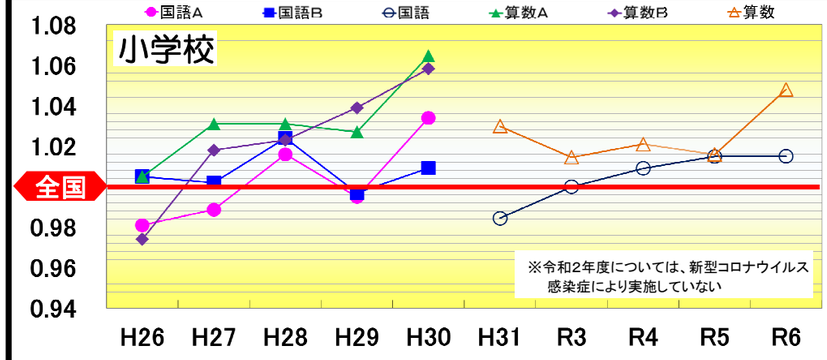
調査結果については、本調査の目的を達成するため、自らの教育及び教育施策の改善、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等につなげることが重要と考えます。

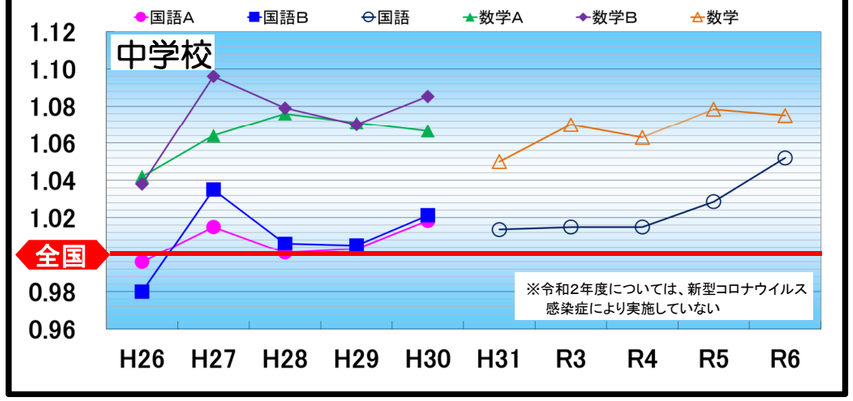
なお、文部科学省では市町村や都道府県の平均正答率を整数で発表することとなっており、本市でも平成31年度より整数での公表としました。

① 校種・教科別正答率（全国比・大阪府比）

	教科	令和6年度				
		高槻市	大阪府	全国	差（対大阪）	差（対全国）
小学校	国語	69	66	68	3	1
	算数	66	63	63	3	3
中学校	国語	61	57	58	4	3
	数学	57	51	53	6	4

② 経年比較（全国比　H26-R6）



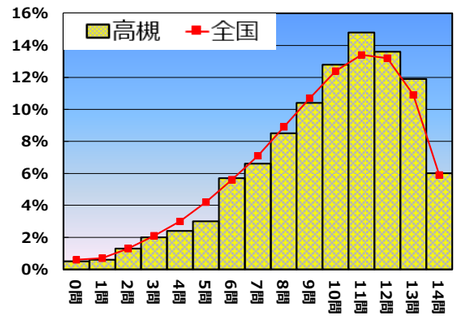


□良好　■課題　③ 正答数分布・領域等別正答率（全国を1.0とした場合）／対全国比

小学校国語（設問数１４問）

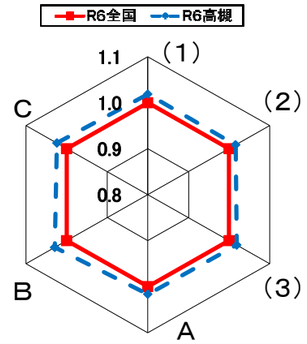
□情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。
□目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる。

■学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。
■文の中における主語と述語との関係を捉えることができる。



＜学習指導要領の内容別＞

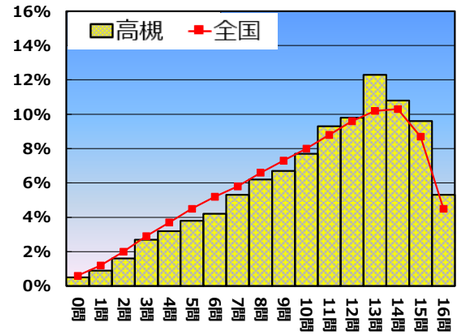
（１）言葉の特徴や使い方に関する事項
（２）情報の扱い方に関する事項
（３）我が国の言語文化に関する事項
A　話すこと・聞くこと
B　書くこと
C　読むこと



小学校算数（設問数１６問）

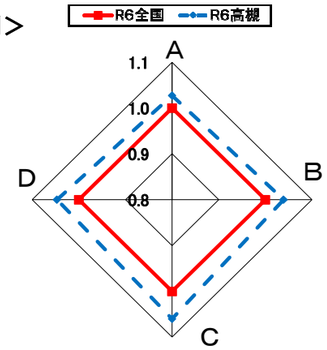
□数量の関係を、□を用いた式に表すことができる。
□円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができる。

■道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる。
■問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができる。



＜学習指導要領の領域別＞

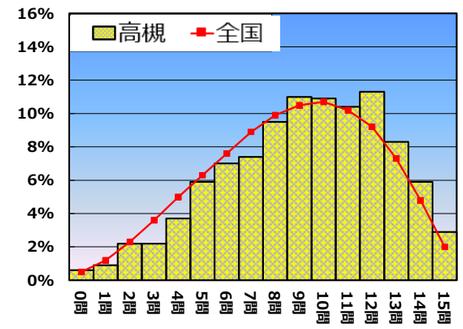
A　数と計算
B　図形
C　変化と関係
D　データの活用



中学校国語（設問数１５問）

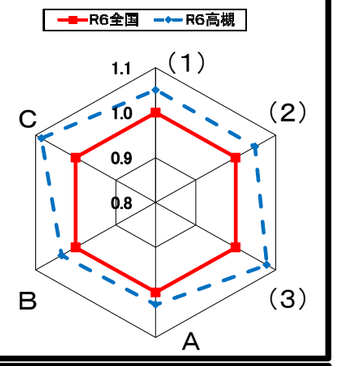
□目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。
□具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。

■必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができる。
■文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができる。



＜学習指導要領の内容別＞

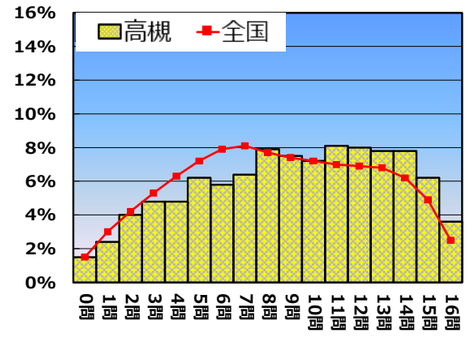
（１）言葉の特徴や使い方に関する事項
（２）情報の扱い方に関する事項
（３）我が国の言語文化に関する事項
A　話すこと・聞くこと
B　書くこと
C　読むこと

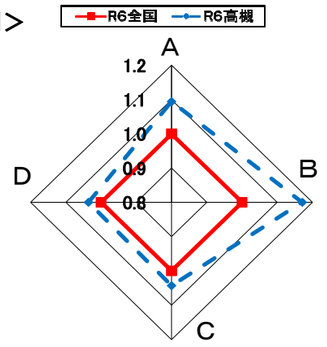


中学校数学（設問数１６問）

□問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができる。
□二つのグラフにおける y 軸との交点について、事象に即して解釈することができる。

■複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。
■事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。



＜学習指導要領の領域別＞

A　数と式
B　図形
C　関数
D　データの活用